

2015年5月12日

RSSC ウィメンズクラブ

活 動 月 報

活動日時	2015年5月11日(月) 11時30分～14時30分
場 所	ホテル リビエラ
出 席 者	12名 記(T.S)
活動内容	<p>1. 新入会員(7期生2名)の紹介</p> <p>2. フリートーク</p> <ul style="list-style-type: none">*一葉ゆかりの地を訪ねる～を終えて<ul style="list-style-type: none">・冷たい小雨の降る中ではあったが、明治にタイムスリップしたような風情のある本郷界隈の<一葉散歩>は、感慨深かった。*一葉と晶子とらいてう<ul style="list-style-type: none">・樋口一葉(1872-1896) 与謝野晶子(1878-1942) 平塚雷鳥(1886-1942) 同じ時代を生きた3人の女性の生き様の違いは…・一葉があと10年長く生きていたら、どのような活躍をしたのだろうか*一葉は日清戦争をどう見たか<ul style="list-style-type: none">・一葉宅がサロンになり、文学界のグループらと戦争に対する論議が頻繁にされ、その中で、一葉は「胸のすくような」談話をしたという心を寄せた半井桃水は中国にも住んだことのある新聞記者。清国について、日清戦争について語り合ったに違いない。*一葉と恋愛<ul style="list-style-type: none">・渋谷三郎との婚約解消、作家半井桃水への恋など*一葉の金銭感覚<ul style="list-style-type: none">・17歳にして家督相続人になり、お金の苦勞が絶えなかった。貧しさは作家としての一葉にマイナスではなく、貧しいからこそ感じた思いがプラスになっているのではないだろうか*その他<ul style="list-style-type: none">・一葉の生きた時代も今も、「女が生きにくい世の中」という点では、変わっていないのではないだろうか。・今夜BSテレビ<一葉と恋>という番組に、作家で「たけくらべ」の現代語訳もしている川上未映子氏が出演する。一葉ファンとしての川上氏のコメントが楽しみである。 <p>3. 福井さんより蘆美林 著『我れは女なりけるものを一樋口一葉小説における女主人公の意識転換一』の紹介と 巻末(日本語訳)の箇所のコピー配布、要約説明があった。</p>

4. 6月以降の研究会の予定

*6月8日(月)「1945年のクリスマス」を読んでの意見交換

*7月24日(月)澤田美喜の活動を追って(大磯町)

以上

